

第 2 学年 社会科学習指導案

1 単元名 「欧米諸国の衝撃と日本」

2 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
貿易ゲームに主体的に参加し、意欲的に学習に取り組んでいる。	開国の影響と尊皇攘夷運動から討幕運動に変化していく時代背景を、多面的・多角的に考察することができる。	市民革命や産業革命、欧米諸国のアジアへの進出に関する様々な資料を適切に選択してまとめることができる。	開国に至る背景と国内の政治や経済の動揺から幕府滅亡に至る因果関係を理解する。

3 指導観

- 本単元は、欧米では産業革命、市民革命が達成され、近代国家が確立し、それを背景にアジア諸国に進出したこと、日本では、そうした動きの中での、ペリー来航、開国、江戸幕府の滅亡を学習する。世界においても、日本においても、「近代」が始まる時代の大きな転換点を扱う単元である。そこで、欧米諸国のアジア進出を背景にした我が国の開国に至った状況や、その後の社会の混乱から江戸幕府の滅亡までの過程を、世界史的な視野から積極的に追究し、考察できる題材である。
- 本学級の生徒は、男子18名、女子20名の計38名である。社会科が好きで、特に歴史的分野に興味・関心が高い生徒が多い。また、素直で意欲的な生徒が多く、落ち着いた雰囲気でも課題等にも積極的に取り組むことができる。しかし、発問に対する発言や発表にはやや消極的である。
- 本単元の指導に当たっては、「市民革命→産業革命→資本主義の成立→資本主義の究極形としての帝国主義→開国」という歴史のとらえ方でこの単元を組み立て、「貿易ゲーム」を歴史的事象に切り込む足がかりとして利用した。このゲームを通して、生徒達に技術を持つ先進国と技術の乏しい途上国の存在と資本主義経済の厳しさを身をもって体験させ、実際の歴史上でも19世紀から同様なことが起きている事に気づかせたい。そして、このような国ごとの格差をなくすためにどうしたらよいか、どう行動すべきなのかを考えさせたい。

4 指導計画及び評価計画（6時間）

配時	主な学習活動・内容	評価規準
2	1. 市民革命や産業革命について学習プリントにまとめる。	市民革命や産業革命について、様々な資料を適切に選択してまとめることができる。
2	2. 貿易ゲームを行い、欧米諸国のアジア進出についてまとめる。(本時1/2)	ゲームに主体的に参加し、意欲的に学習に取り組んでいる。
2	3. 開国から条約締結までの流れ、開国が与えた影響を教科書で調べ、学習プリントにまとめる。	開国の影響と尊皇攘夷運動から討幕運動に変化していく時代背景を、多面的・多角的に考察することができる。

5 本時 第5校時

6 本時の目標

○ゲームに主体的に参加し，班員と協力しながら積極的に学習に取り組む。（関心・意欲）

7 本時指導の考え方

「貿易ゲーム」とは，グループごとに与えられた資源（紙），技術（はさみ，のりなど）をもとに製品（紙の鎖）を生産するというものである。「貿易ゲーム」を歴史的事象に切り込む足がかりとして利用し，「持てる国」と「持たざる国」の存在や立場に気づかせたい。

8 準備

紙，はさみ，のりなどを入れた封筒（グループ間に差がある6セット）

9 本時の展開

配時	学習活動・内容	指導上の留意点	集団づくりを生かす手だて	評価規準 <評価の方法>
10	1. ゲーム内容の説明を聞く。 ①各グループの目的は与えられたものを使ってできるだけ多くの富を築くことである。 ②製品の形とサイズ，価格は，見本図に示されているとおりにある。 ③できた製品は「世界銀行」に持っていき，現金と交換する。 ④時間は20分間である。	○生徒が自分のはさみなどを持ち出しては意味がないので，道具類は全て準備されたもののみを使うことを徹底させる。 ○世界銀行に持って行く製品は，すべて正確なサイズで，はさみを使ってきちんと切られていなければ製品として認められないことを徹底させる。		
20	2. 「貿易ゲーム」を行う。 ●様子を見ながら，途中で製品の価格を急に変えることを宣言する。	○必要な道具が足りないグループには，豊富に道具があるグループもあること，また資本金が準備されていることなどから，道具をグループ間取引によって調達すればいいということに気づかせる。	○体験を通して，自分自身や友達のことでの新しい発見をしたり（今まで気づかなかったよさや優しさ），お互いが助け合えるような人間関係ができる。	○ゲームに主体的に参加し，意欲的に学習に取り組んでいる。
5	3. ゲーム終了。富の集計，順位の発表を行う。			
10	4. 振り返り用紙に記入する。	○ゲームを行っているときの自分の心の動きに注目して書かせる。	○エクササイズを通して得ることができた気づきや発見を仲間と分かち合い，他者受容が進む。	○自分が考えたこと感じたことを的確に表現することができる。
5	5. シェアリングを行う。			

集団づくりの取り組み年間計画（ ）年

	取り組み内容	ねらい
4月		
5月		
6月		
7月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		